

## 平成 25 年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要

○日時：平成 26 年 3 月 19 日(水) 15:00～17:00

○場所：大野市役所 3 階大会議室

○議事：(1)平成 24 年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要  
(2)平成25年度の各機関の取り組み状況  
(3)平成26年度の活動について  
(4)規約の改定

### 1. 平成 24 年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要について

平成 24 年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要について事務局より説明を行い、特に意見はなかった。

### 2. 平成 25 年度の各機関の取り組み状況

平成 25 年度の各機関の取り組み状況についてそれぞれの機関から説明を行った。主な質疑応答は以下のとおりである。

#### (1) 1. 森と湖に親しむ旬間行事～3. 第6回もりみずカップ少年サッカー大会の報告

・今年度新しく始められた取り組みはあるのか。(委員長)

→(事務局)資料には赤枠で示しているが、P2の真名川ダム見学会ではクレストゲートの開扉、水溶紙で作った紙飛行機をダム湖へ飛ばすイベント、記念撮影用パネルの設置がある。

#### (2) 4. 水源地の森づくり第8回植樹会～12. ダム湖周辺の紅葉情報提供の報告

・真名川水辺の楽校は毎年活発に活動されており、大変素晴らしい。水辺の学校の活動はビジョンとは連携・協力しているか。(委員長)

→(関連団体)真名川水辺の楽校のHPは大野市のHP上にあるが、内容の更新ができていない。

連携については、ノーム自然環境教育事務所とは、イベント以外にも連携や協力を行っている。

・九頭竜川ダム統合管理事務所のビジョン HP における各機関のリンク状況等がどうなっているか、できていないのなら今後どうするのか。(委員)

→(事務局)九頭竜川ダム統合管理事務所のHPには、ビジョンの関係機関のHPへのリンクを準備している。内容の更新は遅れがちである。前回委員会でHPの更新を実施していくとしているので、今後更新していきたいと考える。

・弾力的管理試験では様々な調査等が行われているが、現状を精査しているということ

か。

→(事務局)真名川ダムができて治水上は安全になったが、一方で河道の攪拌が起きなくなることによって樹木繁茂やみお筋の固定化等、単調な川になった。弾力的管理試験では、植物・魚類・底生生物・川の状況等を調査しているが、平成23年にダムから360m<sup>3</sup>/s程度の放流を行い、その際河原の植物が流されて礫河原に戻ったことが確認された。今後は、中小洪水はあまりダムに貯めずに流すことで川らしい川になるのではと考えており、来年度からは本格的な運用を予定している。

- ・平成19年に九頭竜ダム湖でコクチバスが確認されて以降、国土交通省や様々な研究団体等が対策にあたり毎年捕獲作業を行っているが、思うような成果が上がっていない。また、平成22年に確認されたウチダザリガニは、平成25年度は新潟大学による2日間の調査で合計54匹採取された。対策について福井県、大野市等の支援をお願いしたい。(委員)

→(事務局)カワウについては、漁協、大野市、国土交通省が協働で年に1回湖面から状況を確認しており、一昨年や昨年に比べ少し減少していると考えている。コクチバスについては国土交通省も平成21年から調査・捕獲を行っており、今後も福井県、漁協、大野市と協力して取り組んでいく。

- ・PM2.5のこの地区への影響はどのようなのか。他の河川や湖沼では調査を行っているところがある。(関連団体)
- ・環境問題としてPM2.5が話題になっているので、今調査項目とするか検討していただきたい。(委員長)

(3) 13. ダムカードの配布とダムマニアとの連携～18. カヌーを使った水辺の安全教室の報告

- ・大野市のカヌー教室は、ノーム自然環境教育事務所のカヌー体験と連携しているのか。(委員長)

→(関連団体)内容が異なり、連携は行っていない。

- ・ダムツーリズム(ダム見学等)は予約可能か。(関連団体)

→(委員)ダム見学はいつでも受け付けている。資料P34のグラフにあるように、下流域の小中学校や農業団体等が来訪されていたが、ここ数年団体見学が減少している。九頭竜ダムは中京圏への交通路にあり立ち寄り客も多いが、真名川ダムは行き止まりのため、ダムに行く等の目的以外ではなかなか来てもらえない事情がある。

来年度の秋に、中島公園等の安定した川が敷地内にある所を活用し、下流域や大野市の子供たちに上流域の水源地域を知ってもらい、その体験と合わせて環境教育に寄与できる仕組みが必要と思っている。

→(委員)活動結果の報告も大事だが、活動予告のアナウンスも大事と思う。いろいろなイベント情報をひとつの窓口を集めればユーザーが広がり、個々の活動に留まらずビジョン推進委員会を通じた地域全体の活動に繋がられるようにしたいと考える。

- ・中部縦貫道が開通すると通過道路となり、国道 158 号線も車の数量が減少するのではないかと危惧される。このような状態にならないよう対策を講ずる必要がある。

対策として麻那姫湖には麻那姫像があるように、知名度のある山紫水明の九頭竜ダム湖に九頭竜伝説の九つの頭を持った龍の立体像を穴馬総社(大野市野尻)前の湖面に九頭竜ダムの守護神のシンボルとして浮かべ、日に3回程度、九つの口から轟音を発して、水を天高く吹き上げるインパクトのあるデモンストレーションが必要だと思う。これにより和泉 IC から国道 158 号線の利用度もあり、訪れる人達の水とふれあう憩いの場となりうるであろう。

当時建設省の方が雪対策の屋根を持った道路を九頭竜ダムの上に走らせてはどうかと話されたことがあった。

上半原のオートキャンプ場の建設にあたっては、副ダムを建設し、ダム湖にカヌー、ボートができるように、当時の建設省の九頭竜ダム周辺環境整備事業で考えていたので、利用できるよう対策が講じられないものか。

九頭竜ダム周辺には休憩できる場所がないので、中部縦貫車道が出来ると観光客が困るのではないか。(委員)

→(事務局)観光協会等と協力して行っていければと考える。上半原オートキャンプ場は大野市と国土交通省が連携することも可能と考えるが、運営等難しい面がある。今後の課題と考える。
- ・利活用の様々なアイデアをもらうことは良いこと。この委員会は、今まで取り組んでいることをしっかり実施し連携していくことをメインにしているので、その基本路線の上に色々なご意見をいただければと思う。(委員長)

### 3. 平成 26 年度の活動について

平成 26 年度の活動について事務局から説明を行った。

- ・日帰り里山留学は誰が実施するのか。

→(事務局)平成26年度は事務局が主体で実施し、その後は委員会構成メンバーの協力を得つつ、イベントとして繋げたいと考える。関係団体としては越前おおのエコフィールド、九頭竜自然楽校、真名川水辺の楽校ビオフレンズ、九頭竜森林組合、大野市観光協会等を考えている。
- ・真名川水辺の楽校ビオフレンズやノーム自然環境教育事務所の取り組みも日帰り里山留学と類似していないか。既に実施されている取り組みをバックアップしていく方がよいか、新規に行う方がよいか、慎重に行った方が良いと思う。

→(事務局)福井豪雨から10年、奥越豪雨から50年、九頭竜ダム完成から50年等もあり、また治水・利水等のダムの役割を下流域住民や将来を担う子供等に知ってもらう取り組みと考えている。最初は事務局が手がけ、関係機関の知恵やノウハウ等の協力を得て取り組みに繋がっていけばと思う。

#### 4. 規約の改定について

規約の改定内容(大野市の組織改編に伴う第6条、別紙1の委員構成表を委員の役職までの記載とする)について事務局から説明を行い、了承された。

以 上